

自働車技術会会議内容

2021年7月15日 第1回環境部会

- ・自動車標準化委員会内容報告
5ヵ年計画見直し提出の為、各分科会の見直し提出をする。
- ・部会、分科会構成表提出
- ・部会活動計画提出
- ・各分科会のISO活動状況報告
天然ガス自動車分科会
LPガス自動車分科会
DME自動車分科会
自動車騒音分科会
車室内空気質分科会
- ・国際会議出席計画審議
TC197/JWG30（水素技術国際標準化）国際会議報告
TC22/SC41（自動車における国際標準化・ガス自動車分科会）国際会議報告
TC146-TC22/SC6/JWG13（大気の質/室内空気）国際会議報告
- ・JIS/JASO 定期見直し
E204-02:2002 天然ガス自動車容器安全弁性能要件 廃止提案
E207-06:2006 天然ガス自動車継手及び配管等 廃止提案
E208 LPガス自動車燃料充填口 ISO登録、国内使用規格見直し無し
M902、Z125 車室内揮発性有機化合物放散測定方法 各社規格に引用している
るので見直し無し
- ・2022年度国際会議派遣計画申請書を8/13まで事務局へ提出
- ・カーボンニュートラルに向けた天然ガスの動向資料
経済産業省 2050年に向けたガス事業の在り方研究会
https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/2050_gas_jigyo/index.html
日本ガス協会 カーボンニュートラルチャレンジ2050
<https://www.gas.or.jp/pdf/about/challenge2050.pdf>

2021年11月5日 第2回LPガス自動車分科会

[1]第1回LPガス分科会議事録確認

- CIB投票3件 N497（通信で投票するために関する件）
N498（通信投票をするための最新バージョン送信する件）
N499（通信投票の為の投票用紙を送信する件）

[2] ISO 20766(LPG車のシステム構成部品規定)

- ・ISO 20766-6(圧力リリーフバルブ)DIS投票の件
クリーブ試験(加熱破壊試験)が追加されるが日本製品の適合性を確認する。
2.25倍圧力ではバルブ作動するのでバルブ部の確認はできないと思われる
がどのように試験するのか確認する。
- ・ISO 20766-7(過流防止弁)DIS投票の件

バイパス不要条件記載変更は日本規格での対応が可能なので問題なし。

- ISO 20766-8 (LPG ポンプ) DIS 投票の件
事故等でのポンプ停止記載は部品の内容ではなく、システムのため削除されたので問題なし。
- ISO 20766-13 (マルチバルブ) FDIS 投票の件
流れ方向マーキングは必須事項に変更は妥当。
清水圧強度測定、認可ナンバー記載は対応できるため問題なし。
- ISO 20766-14 (ベーパーライザ、プレッシャーレギュレーター) FDIS 投票の件
- ISO 20766-16 (インジェクタ、ガスアダプター、ガス導管) FDIS 投票の件
14, 16 は流れ方向マーキング必須内容で妥当であり問題なし。
- ISO 20766-17 (ガス供給ユニット) DIS 投票の件
- ISO 20766-21 (圧力・温度センサー) DIS 投票の件
17, 21 コメント意見なく変更がないため問題なし。
- ISO 20766-24 (ガス管) FDIS 投票の件 日本担当
流れ方向マーキングは必須化は妥当。非シームレスタイプチューブのみに適用の試験は「必要な場合には」と修正の為問題なし。耐食性試験内容は全て妥当であり問題なし。
- ISO 20766-25 (ガス接続) FDIS 投票の件
流れ方向マーキングは必須化は妥当であり問題なし。

[3] 車載用高圧容器法規一本化情報 (燃料電池車等の規制在り方検討会)

- 全5回の検討会が終了し、一本化の方向性が合意された。
- LPGは容器再検査、国際基準調和等他と異なり、同時にはできない為に可能であれば業界内で検討し、改めて省庁に働きかける。

[4] 国際基準調和関連 (自工会)

- UN-R67 国際基準調和で大きな問題となる高圧容器破裂時の容器膨張率 20%以上基準が日本の基準に無く、達成できない。
- 国内規格材料の選択、容器取付部品取付部位溶接位置の検討により、膨張率向上が見込めるため 20%以上膨張率の確認試験を行っていく。
- 前記膨張達成は不確定なためにこれからも検討は継続していく。

2021年11月9日 第2回環境部会

- 9月28日規格審議委員会、自動車標準化委員会報告
- 次年度部会、分科会構成表審議、承認
- 分科会活動状況報告
天然ガス自動車分科会
ISO/TC22/SC41/WG3/4/5/7/9 (ガス燃料装置/試験規格/安全要件) 規格検討定期見直、ISOのドキュメント改定と新規提案に伴う確認と内容の精査を実施
国際会議出席
JASOについては、UN-R基準調和済であり、E204 容器安全弁、E207 接手及び配管類の規格廃止提案を実施、規格廃止に向け作業中

LPガス自動車分科会

国際会議対応

ISO 正式発行済 10 件

- 20766-1 定義
- 20766-2 要求と評価
- 20766-3 80%バルブ
- 20766-4 レベルインジケータ
- 20766-6 PRV
- 20766-9 PRD
- 20766-10 ガス気密ハウジング
- 20766-11 シャットオフバルブ
- 20766-12 ノンリターンバルブ
- 20766-18 ホース
- 20766-20 フィルタユニット

DIS 投票へ移行

- 20766-7 過流防止弁付きサービスバルブ

FDIS 投票中

- 20766-13 マルチバルブ
 - 20766-14 ベーパーライザー
 - 20766-16 インジェクタ及びミキサー
 - 20766-24 ガスチューブ
 - 20766-25 ガス接続
- WD コメント投票済
- 20766-5 燃料選択システム
 - 20766-15 緊急遮断弁
- DIS 投票中
- 20766-8 燃料ポンプ
 - 20766-17 ガス供給ユニット
 - 20766-21 圧力温度センサ

DME自動車分科会

国際会議対応

加圧充填コネクタ（仏提案）、燃料システム機器の一般要件と定義、性能と試験方法の3件、IS化完。

均圧充填口コネクタ（日本提案） 高瀬、プロジェクトリーダーとして活動中。

WD各国コメントを集約して対応案を作成し、ISO事務局に提出済。後述の11/1-5(延期連絡あり) イタリアOstuni開催WG会議にて審議予定。

DME容器に対しての各国アンケートが実施され、スウェーデンはISO化が望ましいとのこと。他国は自国内の法に従うとの意見にて現段階でISO化を要望していない。

自動車騒音分科会

国際会議対応

ISO/TC43/SC1/WG27（自動車騒音試験方法：温度の影響）

車外騒音試験方法（ISO 362-1 改正）

プロジェクトリーダー；USA。DIS投票のコメント対応。日本からのコメントはすべて反映された。11月のプロジェクト会議でFDISを完成させる。

車外騒音屋内試験方法（ISO 362-3 改正）

プロジェクトリーダー；ドイツ。DIS投票結果、Editorialなコメントのみであった。11月のプロジェクト会議でFDISを完成させる。

停止時及び低速走行時の自動車騒音試験方法（ISO16254 改正）

プロジェクトリーダー；USA。暗騒音補正について、SAEから測定値と暗騒音差 $\Delta L=10\text{dB}\rightarrow 6\text{dB}$ で暗騒音補正なし、日本からはUN後退警報法規ドラフトと同じ暗騒音変動幅 $2\text{dB}\rightarrow 4\text{dB}$ の場合 $\Delta L>3\text{dB}$ ま

で補正を提案。Tonal Loudness による周波数シフト新分析方法の提案がドイツからあった。結論が出ない場合は、提案内容を併記し、2ndCD 投票で各国の意見集約を行うことにしている。

車外騒音試験用路面 (ISO 10844 改正)

プロジェクトリーダー；フランス。FDIS 投票が 10/27 期限で行われ、投票結果、賛成 19、反対 0 で Approve された。2022 年 2 月の WP29/GRBP に改訂内容を紹介し、UN-R51 (騒音) の改訂の準備を行う。

室内騒音試験方法 (ISO 5128 改正)

プロジェクトリーダー；ドイツ。DIS 投票中。12/13 期限。

ISO/TC43/SC1/WG33 (異なった路面における道路交通騒音の比較測定方法)

タイヤ路面騒音の温度補正方法の CD TS13471-2 DTS 投票結果、賛成 13、反対 3、棄権 10 であった。規定では、TS 発行へ進めることは可能であるが、C2 タイヤの補正データが入手できたため、改訂を行い、再度 DTS 投票することとした。

ISO/TC43/SC1/WG42 (車外騒音試験方法、Indoor試験方法、停止・低速走行時の騒音試験方法、車内騒音試験方法等)

ISO13472-2 (路面の吸音率測定) 改訂がオランダより提案された。新たな計測器が必要になり、また、ISO10844 (騒音認証路面) にも引用している規格であり、審議内容をフォローする。

車室内空気質分科会

国際会議対応

TC146/SC6/TC22ジョイントワーキングの活動対応

2021年9月23日に#17 TC146/TC22/SC6 JWG13が開催された。日本からエキスパート全員が参加した。本、ISO meetingでPart11 NP投票コメントに対する回答の合意及び日本提案であるフォギング試験方法 (Part12) のNPについて説明を行った。次回、2022年春にWebにてISO meeting開催予定。

12219-1 (乗用車の車室内VOC測定方法) : USAリーダー

WP29傘下のWGで議論し合意した内容へ改正を行い、IS発行が完了した。本試験方法はJAMA試験方法や欧州REACHでのFA規制に準拠が検討されている重要が試験方法である。改正にあたり、合意内容との乖離を指摘するなど日本の役割りを果たせたと考える。

12219-10 (バス/トラックの車室内VOC測定方法) : 日本リーダー

日本提案の案件である。日本で実績のあるJASO Z125をベースに提案したISで、2021年6月に発行が完了した。本ISも欧州REACHによるFA規制への引用が検討されており重要は試験法である。

12219-11 (熱脱着法によるVOC分析) : ドイツリーダー

VDA278のIS化案件で、加熱脱着時の温度の影響される試験法である。

試験温度はVOC測定に影響するため、キャリブレーション温度の影響に関する情報の検証をGER/USAチームで行い結果が報告される。ドイツメンバーはラウンドロビンテストを実施し、Documentに修正が発生する場合は、2022年2月までにIS事務局に報告する。本ISO meetingでDISへ進めることで合意された。

12219-12（自動車室内材料のフォギング試験方法）：日本リーダー
SEA VOC WGで説明した既存規格であるDIN75201、ISO6452、SAE J1756の試験条件の差異及び課題に対する検証結果からDRAFTを作成し、改めて説明を行った。既に、UKやUSとロビー活動を進めていたことから意見や質問などなく、NP投票が合意された。

- 国際会議出席計画（各分科会）審議承認
- JIS/JASO 対応内容（各分科会）審議承認
- 2021 年度標準化活動功労者候補者推薦説明
- 各分科会各種資料更新依頼